

私は自分の文化を語ろうとしても、良い話題が多過ぎて、中々決められない気がします。そして、日本と故郷であるイタリアの意外な共通点を語るにはそれよりもっと努力が要るでしょう。ですから「universal language」である音楽の手を借りて説明しようと考えています。まず、前文として、故里の歴史を少し語らせて下さい。

シチリア島の文化の主な特徴は、長い歴史の中での色々な文明が影響を与え、共存して成り立っていることです。その間にはフェニキア、古代ギリシャ、ローマ共和国、ビザンティウム、アラビア、(ノルマン人による)神聖ローマ帝国、シュヴァーベン、アンジュー、アラゴン、スペイン、サヴォイア、オーストリア、ボルボン、そして遂にイタリア王国が数えられ、新しく支配される度にシチリア人はその侵入者の文化を受け入れ、異なる種族とその習慣の十字路口になりました。それとともにシチリアの各新しい民族音楽と先住民の伝統音楽が混じり合ったシチリア島に於いて、特に実りの多い影響を与えたのがアラビアです。その理由は次のようになります。アラビア人は9世紀にヨーロッパ(南イタリアとスペイン)に侵入すると、リュートという楽器を持ち込み普及させました。(アラビア人によるシチリア島の支配は9世紀から11世紀末位迄続きました)。

代表的な例として中世シチリアの民族音楽になったアラビア語の歌詞の上に作られた曲を翻訳したものが以下になります。

Navaii

ナヴァイーナヴァイー、ナヴァイー
レイリが自分の静寂に座る様に
御懊悩は心の隠れ家に孤立している
ナヴァイー、ナヴァイー

一回飛んだらめったに戻らない
野生の鳥の様な私の心を傷つけないで下さい
ナヴァイー、ナヴァイー

(シチリア島のヒンターランド(後背地)に未だに或特別な音楽的な表現が残っているのは明らかです)

さて、第二前文が必要になります。昔から中世音楽に夢中になっている私は、その時代に絡まっている趣味があります。それは中世時代を再現しながら自分でその時代のキャラクターを演じるヨーロッパの芝居の様なゲームです。シチリアだけで三百人を数えるサークルの中で、私は吟遊詩人を演技することがよくあります。留学生として来日してからそのゲームは続けていませんが、日本で勉強して、邦楽における吟遊詩人を知り、昔のヨーロッパの吟遊詩人、いわゆる minstrel、との意外な共通点を知りました。それはヨーロッパの古代楽器リュートも、日本の琵琶(ビワ)も、古代アラビアの伝統楽器の受け継ぎだということです。昔から極めて異なる文化の間で、この様な奇跡的な共通点がありまして本当に驚くべきだと思います。

勿論、音楽的に話せば楽器が似ていても、邦楽と西洋楽は少しも似ていません。しかし、元々リュートと琵琶に同じ「祖父」があることは否定出来なくて、非常に興味深い話です。

Gabriele Alliata
ガブリエレ アッリアタ